

つくろう 伸ばそう 鹿沼の文化

かぬま文化

No.163

発行人 鹿沼市文化協会
 発行責任者 会長 山菅 昭八
 編集委員会 委員長 鈴木 貢
 印刷所 晃南印刷(株)

第40回鹿沼市民文化祭開幕式レポート ちばてつや講演会「マンガの持つ力を未来へ」



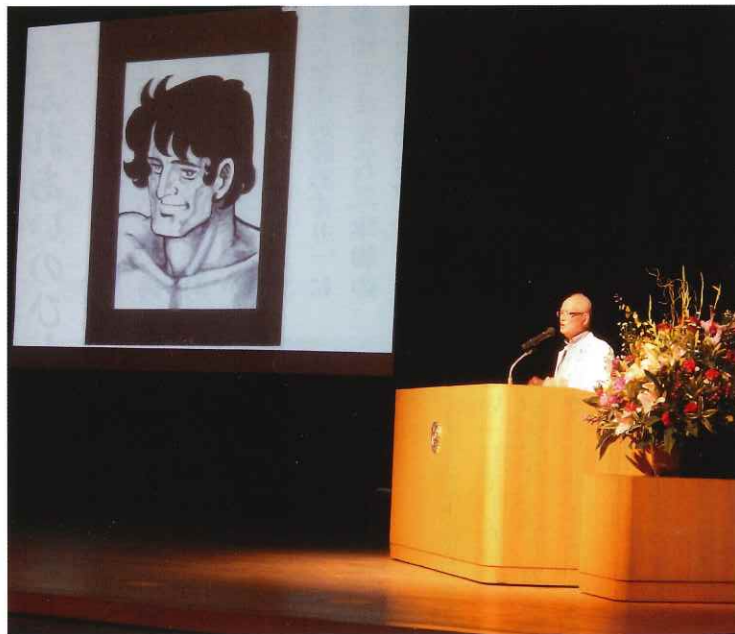
を迎える節目の年となったこと、また今年度から市民文化祭に「マンガ・イラスト展」が新たに開催されるのを記念して、開幕式後のアトラクションに



「つくろう・のばそう・鹿沼の文化」を合言葉に今年も鹿沼市民文化祭の開催を告げる「第40回鹿沼市民文化祭開幕式」が9月29日の土曜日、市民文化センター大ホールにて盛大に開催されました。

「あしたのジョー」や「ハリスの旋風」でおなじみの漫画家「ちばてつや先生」を迎え、「マンガの持つ力を未来へ」と題した講演会を開催しました。

式典には、主催者である佐藤信鹿沼市長をはじめ、大島久幸市議会議員、神谷幸伸県議会議員など多くの来賓のご挨拶をいただき、「鹿沼の文化を皆さんと一緒に更に伸ばしていこう」との呼び掛けに会場全体が呼応する形で確認することができました。



先生の子ども時代の話から漫画との出会いやお母さんから漫画を描くことに反対された話、そして先生が生み出した数多くの魅力的なキャラクターについてのエピソードなどを、

先生の柔らかい語り口で講演いただき、市内外から集まった多くの聴衆を大いに沸かせてくれました。講演の後の質問時間に



は、何人もの質問にひとつひとつ丁寧にお答えいただき、先生の誠実な人柄を垣間見ることができた充実した講演会でした。

併せて、今回も茶道部会の皆さんによる呈茶席の開設や恒例となった市民文化祭のお知らせする展示会も同時に行われ、文化祭の開催を盛り上げる催しとなりました。

目次

茶道裏千家 阿部教室	2	視察研修旅行	4
いけばな小原流	2	告知板	4
昇玉流 鹿沼支部	3	編集後記	4
フラワーデザイン部会	3		

香付花月

茶道裏千家

阿部教室 阿部 宗洋

今日は七事式（精神面と点前作法の両面の練成を目標に構成されてきた七つの式）の中の香付花月の稽古です。

花月には、無学和尚の互換機鋒看子細（ごかんのきほう しさいにみよ）の偈頌があてはめられています。

絶えず他の動きに気配りし、変化があっても少しも動じず、それに応じての動きができるようになる修練です。

香付花月は、最後にお香の銘に題した和歌や俳句を作ります。

札をひいて役を決め始めます。

緊張しての席入りで、歩く足も覚束ず、左右間違えてしまいそうです。

水屋で、「詠みやすい香銘を一番上に置いておきましょうか」などとワイワイしましたが何の操作もせずそのまま重香合に入れました。

亭主が香盆を持ち出しお香が焚かれました。今日選ばれた香銘は「むさし野」です。

お香のかおりで部屋中が清められ、その中でお薄が三販点ちます。どのような歌を詠もうか頭がいっぱいでお薄の味も解りません。

いよいよ、墨をすり、それぞれの歌を奉書に書きまします。不安だと言っていたわりには、皆、すばらしい歌を詠み、互いに「すごいね」と誉めあっています。

最後に月の札をひいた人が歌の書いてある奉書をいただき香付花月は終わりました。

当日詠んだ歌です。

大空を小屋を連れて楽しんで

輝き渡るむさしの月

宗浩

終ってホッととし、「楽しかったネ、またやりたいネ」との声があがりました。

これからも楽しく、時に厳しく、細く永くお弟子さん達とお茶に励みたいと思っています。



社中で益子に行き陶芸をやってきました

ふれあいのひととき

いけばな小原流 川上 鳳雲

平成30年6月25日、栃木県茶華道協会研修旅行「国際避暑地 日光」かつて各国の大使たちが愛した地の別荘めぐりに参加しました。「本物の出会い、栃木デスティネーションキャンペーン」の一環として、特別公開された建築90周年の現役ベルギー王国大使館別荘と、英国・イタリア大使館別荘記念公園を見学する旅で、県内各地の会員78名が参加しました。当日は現地集合。足利と矢板市はバスを仕立てて、凄い。鹿沼は私一人なので愛車で集合場所へ。清々しい緑を駆け別荘から眺める中禅寺湖、ヨットやボートを楽しんだ方たちに思いをはせました。

イタリア大使館では、説明員から「折角だから大使夫人が座るお椅子にお座りなさい。写真を撮ってあげますよ。」と

のお言葉、大使と夫人、他、座るべき椅子がちやんと決まっていた、大きさや何か違うのです。とても優雅でゆったりとした座り心地で笑みがこぼれました。

多くの会員と触れ合う楽しい一日でした。時が過ぎ、10月24日、東京で、いけばな国際交流の会に出席後、仙台の先生と当日開幕の東山魁夷展を新国立美術館で楽しみました。

その会場で、とても素敵な出会いがありました。9月11日の鹿沼市文化協会の視察研修旅行で訪れた、サザエさんの作者、長谷川町子さんの美術館に収蔵されている作品、「春を呼ぶ丘」が展示されていたのです。白馬が登場したその絵、長谷川さんが美術館を作るきっかけとなったという東山魁夷の作品でした。素敵な出会い、点が連



於) 中禅寺金谷ホテル

なった。嬉しいときでした。

高校生の生け花

昇玉流 鹿沼支部長 橋本 勝雲

市制70周年、お目出とうございます。記念すべき年に、寄稿出来まことに、感謝申し上げます。

昇玉流鹿沼では、県立高校2校に、華道部講師として出向しております。

先輩先生から受け継ぎ、四代目になります。芸術、スポーツ、他の流儀でも、基本を無くし

華道部のお稽古は、平均月2・3回ですが、完成した作品は、校内の数ヶ所に展示し、学生、職員に潤いや落着きを与えています。



毎年、市民文化祭に、一般の方に混ざって何人かの生徒が、出品させていただきます。

華道部は、基本をしっかり覚え、花材と向い合い、会話しながら、精神統一し、花に命を吹き込み、完成します。

華道部のお稽古は、平均月2・3回ですが、完成した作品は、校内の数ヶ所に展示し、学生、職員に潤いや落着きを与えています。

お花屋さんの協力のもと、生徒と共に、日々精進してまいります。

フラワーデザイン〜時代と共に〜

フラワーデザイン部会 監事 軽部 弥生

フラワーデザインは時代の流れと共に色々に様式を変えながら確立された花の文化です。古代ギリシャ・ローマ時代の花環などから始まり中世・バロック・ロココ時代・近代へと長い歴史を越えてきました。国によってもデザインの特徴の違いはありますが世界共通の文化ではないでしょうか。

そのフラワーデザインを文化祭へ、21年前に発足され、部会としての活動が始まりました。年に一度の文化祭が主な活動で、平井好部会長を中心に、小太刀昌子副部会長、深井芳恵会計委員、監事の軽部弥生、4名が其々の役割で文化祭の準備をし開催へと至ります。20年余りの間変化した事は、発足当時花屋さんが中心となっていました。現在は趣味でフラワーデザイン

を学んでいる方々が中心となり文化祭の展示を行っている事です。この事は、フラワーデザインが一般的に広まってきたという証しではないでしょうか。



につける装飾品)、コラージュ(糊つけの技法を使った壁飾り)など多種多様です。昨年は加蘇中・久我小・加園小合同のクリスマスキャンドル教室を行いました。

小中混合グループでひとつの作品を制作しましたが、男子の積極性に驚きました。私達が活動する事で、身近に有る自然の美しさに気づいたり心のゆとりや癒しを感じてもらえましたらと思います。そんな事を期待しつつ今後も努力しながら活動していきたいと思っています。

感動満開の視察研修旅行

研修部会 高橋 進

猛烈残暑を昨日通過した前線の雨風が吹き払って、涼しくさわやかな9月11日の朝。34人を乗せたバスは、刈り入れ前の緑の田園を左右に見て一路南へ。やがてコンクリートジャングルを縫うように流れる首都高速を走り、東京都庭園美術館に到着。そこは旧朝香宮邸を利用した、西洋庭園と茶室も備えた日本庭園の中に佇み、

かったのは、うどんすきの元祖、美々卯京橋店。老舗らしい上品な雰囲気の中で、美味しい和定食で満腹になり、次の目的地桜新町へ。

『サザエさん』の作者の長谷川町子と姉の鞠子さんが収集した、洋の東西を問わない様々なジャンルの作品を展示する長谷川町子美術館。サザエさんの原画の展示室もあり、サザエさんを産みだす創作の原点も楽しく見ることができました。館長さんの説明も聞き、団扇やファイルもプレゼントしていただき、小さいけど温かみのある館を後にしました。

カへの留学の経験があり、西洋の文化を知り尽くしたうえで、茅葺の農家を長年かけて改装しながら住んだ所で、実際に使用した調度品や収集した骨董品などを展示、次郎が中学生の頃から乗り回したというアメリカのスポーツカーP A I G Eも展示されていました。

今回の研修旅行も参加希望者が多く、キャンセル待ちの人もいましたが、当日になっての体調不良や、急な所用ができてしまった方がいて、空席ができたのに対応する術が無かったのが残念でした。

告知板

第1回いちごいちえ鹿沼川柳大会

内容

いちごいちえ全国誌上大会

投句受付期間…平成30年10月1日(月)

平成31年1月31日(木)

投句先…〒322-0069 栃木県鹿沼市坂田山2-170

鹿沼市民文化センター内

鹿沼市文化協会「いちごいちえ鹿沼川柳係」

いちごいちえ鹿沼川柳大会

日時…平成31年2月23日(土) 午前9時～午後4時

会場…鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー

◆問い合わせ

「かぬま川柳会」松本とまと ☎(0289) 62-5700

FAX(0289) 62-5797



白洲次郎の愛車



武相荘レストラン



ブラジル先住民の椅子



東京都庭園美術館

編集後記

第40回鹿沼市民文化祭は、全部門での事業が無事終了いたしました。今年の開幕式においては、1ページのレポートのとおり、ちばてつや先生の熱のこもった講演があり、私たちに強い感動を与えてくれました。

今回の会報には、生活文化部門から、「茶道裏千家」の阿部宗洋さん、「いけばな小原流」の川上鳳雲さん、「昇玉流」の橋本勝雲さん、「フラワーデザイン」の軽部弥生さんの4名に、それぞれの活動状況や日頃の思いを書いていただきました。皆さんがそれぞれの部門に関わる課題に向き合い、部門が目指す目的に真剣に取り組んでいることを実感いたしました。

市民文化祭は、これからも回を重ねていくと思いますが、鹿沼市が文化を愛する街として更に成長していくことを願う次第です。

(編集委員 廣田 忠)

◆編集委員会◆

鈴木 貢 小林 守
前田 成彬 廣田 忠
板橋 和子 若月 里子